



ジオパーク認定後の初日の出(二ツ森)

白神世界遺産を見渡せる二ツ森

八峰町には奇しくも「二ツ森」と呼ばれる場所が二箇所あります。その一つは真瀬川河口付近で、ハタハタの漁場として知られる海の「二ツ森」。もう一つは藤里町と鱒ヶ沢町にまたがる山「二ツ森」です。

山の「二ツ森」は八峰町外にありますが、この山に登るには昔から八峰町から入山して来ました。そのため八峰町住民にとっては深いかわりを持つてきた山です。

建設された青秋林道がまだ出来ていなかった時代、八森の人たちが二ツ森の山頂まで往復する所要時間はおおよそ13時間だったと聞いています。子ども心に二ツ森に行ってきたという若者の姿が英雄のように見えたことを思い出します。

昭和57年に着工された青秋林道が青森県との県境まで到達した時点で建設中止となりました。道路は舗装され、標高850mまで車でのぼれるようになります。白神山地の一部が世界自然遺産に登録になったこともあり、二ツ森へ登山する人々が急増しました。

標高1086mの二ツ森山頂はアカミノイヌツゲやナナカマド、チシマザサなどで覆われ、高木はありません。そのため眺望がよく、世界自然遺産が一望できることが人気となっています。遠望される白神岳や向白神岳の地形の解説

が地質と関連させてガイドによって語られることも魅力のひとつとなっています。

二ツ森は550万歳

写真は二ツ森の北斜面から昇り始めた日の出です。この二ツ森についてはたくさんの方の科学者によって研究が積み重ねられてきました。二ツ森の周囲にみられる岩石は海に堆積した泥岩（泥が固まってできる）であるのに対して二ツ森本体は石英閃緑岩（えんりゅうがん）というマグマが冷えて固まった岩石から出来ています。この岩石は泥岩に比べるととても硬く、雨や雪によって削られる量が泥岩の場合よりも少ないのです。そのため二ツ森の周囲にある泥岩が雨や雪で削られ細かくなつて川で海まで運ばれてしまったのに対し、硬い石英閃緑岩からできている二ツ森は現在のような形で残っているのです。

この石英閃緑岩は今から550万年前に出来たことが、最近研究者によって発表されました。

八峰白神ジオパーク推進協議会

会長 工藤英美

八峰白神ジオパーク推進協議会

〒018-2612

秋田県山本郡八峰町八森字ノケソリ116

旧岩館小学校内

TEL 0185-78-2427